

技術・家庭科教育の充実に向けて

東京都中学校技術・家庭科研究会 会長
目黒区立第十一中学校長
田井 俊行



令和5年5月18日に開催されました総会におきまして承認をいただき、瀬川前会長から引継いで、東京都中学校技術・家庭科研究会の会長を拝命いたしました、目黒区立第十一中学校長の田井俊行です。どうぞよろしく願います。

本研究会は、教科に関する様々な研究・研修や情報交換及び事業等を行い、技術・家庭科教育の研究と振興を図ることを目的としています。そして、本研究会は、専門的な知識と経験をもった会員の皆様一人一人の意欲と力と支援から成り立っています。共に知見やアイデアを共有し、相互の支え合いと協力を通じて、互いに研鑽を図ることができればと考えています。

さて、約3年にわたるコロナ禍により、我々の研究会活動は大きな制約を受けました。総会や研究発表会は、紙面やオンラインでの開催となり、参集しての研究も活動の縮小を余儀なくされました。本年5月8日に新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類感染症に移行となり、様々な行動制限が緩和されましたが、以前のような活発な活動の復活には、この3年間の制約が大きな障害となっています。

また、都内公立中学校における技術・家庭科の教員の欠員が深刻な事態であることは、私たちの課題として直面している現実です。ある調査によれば、本年の5月現在、都内では、17名の技術科教員の欠員が生じているとのこと。この欠員数は、教科別では最多となっています。さらに、地区によっては、技術・家庭科の正規教員の数が少なく、地区単独での研究の実施が難しくなっているところも出てきていると聞いています。

こうした状況や課題の解決に向けて、研究会としてこれまで以上に結束して取り組んでいくことが重要です。コロナ禍を経て、研究会活動においては、対面によるコミュニケーションの重要性を強く感じました。また、会員の皆様や各地区の密な連携を図り、お互いの意見やアイデアを活かしていくことが活発な研究会活動に資することも再認識しました。共に考え、協力しながら、より良い研究を進めていくことができれば願っています。

このことから、本年度は特に「対面によるコミュニケーションの重視」と「様々なレベルでの連携」に注力して運営を行ってまいります。研究会の活動を活発化させ、会員の皆様が互いに学び合い、刺激し合える場を提供してまいります。定期的な研究会や実技研修会の開催、情報共有の促進、創造ものづくり教育フェア in Tokyoなどの事業等、様々な取組を通じて、実現していきたいと考えています。

技術・家庭科の教員が一堂に会して研究等を行うことができる、発表会等は、我々の資質・能力向上に加え、横のつながりを築く端緒として、極めて大きな意義があると認識しています。地道に回を重ね、以前のようにしていきたいと考えています。昨年度末の研究発表会以降、本年度の総会、中間報告会と参集型による開催を復活させました。未だ参加者数はコロナ禍以前のような規模には及んでおりませんが、実施するたびに、紙上発表やオンラインでは得難い良さを感じています。

また、各地区研究会の活性化と地区間の交流を目的として、各地区の研修会に近隣地区の教員と一緒に参加できるよう促進する取組も復活させました。本年度は、世田谷区、小平市、府中市の研究会の御協力を得て、地区外の教員の参加を受け入れていただき、ありがとうございました。

研究活動につきましては、昨年度に引き続き、研究主題及び副主題を「よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し創造する生徒の育成を目指す技術・家庭科教育 -問題を見極め課題を設定し解決する学習とその評価-」として、技術・家庭科の両分野の各内容について、研究を進めてまいります。

困難な状況にあっても、私たちの使命は生徒に最高の教育を提供することです。それぞれの生徒の成長と未来のために、私たちは研究を充実させていくべきであります。また、研究会の活動は、互いを励まし合い、知識や経験そして情熱を共有する場であり、会員相互の成長を促進していく場であるべきです。共に学び合い、成長していきましょう。

都内には、1000名を超える技術・家庭科の教員がいます。コロナ禍を乗り越えて、研究会の活動を活性化させていきましょう。そのためには会員皆様の協力が不可欠です。共に力を合わせ、技術・家庭科教育の充実に向けて進んでいきましょう。